

公開実用 昭和62-188946

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭62-188946

⑬ Int.Cl.⁴

H 02 K 3/50

識別記号

庁内整理番号

A-7429-5H

⑭ 公開 昭和62年(1987)12月1日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 交流回転電機の固定子巻線

⑯ 実 願 昭61-76537

⑰ 出 願 昭61(1986)5月21日

⑱ 考 案 者 山 下 善 文

川崎市川崎区田辺新田1番1号 富士電機株式会社内

⑲ 出 願 人 富士電機株式会社

川崎市川崎区田辺新田1番1号

⑳ 代 理 人 弁理士 山 口 巖

明 細 書

1. 考案の名称 交流回転電機の固定子巻線

2. 実用新案登録請求の範囲

- 1) 結線端にろう付け固定する接続片を介して口出線を引き出したことを特徴とする交流回転電機の固定子巻線。

3. 考案の詳細な説明

〔考案の属する技術分野〕

本考案は交流回転電機の固定子巻線に関する。

〔従来技術とその問題点〕

一般に交流回転電機は固定子鉄心に巻線を組み込み後、乾燥、ワニス処理、鉄心のフレームへの取り付け等の後工程を経て完成されるが、後工程ができるだけ円滑に行われるものであることがのぞましい。

従来の交流回転電機の固定子巻線は第2図に示すように、固定子鉄心1に組み込んだ固定子巻線2の結線部3に、口出線4を巻線の共線21に直接ろう付け接続して引き出していた。

口出線4は結線位置と引出位置がずれるのでコ

イルエンドに沿ってまわして図示しない端子装置まで引き出されるので長さが長く、(時には数メートルになる)結線部が膨れ、また口出線は巻線組み込み結線時に取り付けられるのでワニス処理等の後工程で長い口出線を付けたまま取り扱わなければならないのでその保護に神経を使い、特にワニス処理時に口出線が邪魔になり、さらにまた口出線は端子箱との接続時に長さ合わせを行うので、長さに余裕を見ておかねばならず無駄に切り捨てる部分が多くなるといった欠点があった。

〔考案の目的〕

本考案は前記の欠点を除去し、口出線の取り付けを後工程後に行うことを可能とし、結線後の口出線の保護および長さ合わせによる無駄な切り捨て部を無くし、結線の作業性向上を図るようにした交流回転電機の固定子巻線を提供することを目的とする。

〔考案の要点〕

本考案は固定子巻線の結線部に接続片を共線にろう付けして取り付け、口出線をこの接続片にボ

ルト締めにして後工程後に接続できるようにしようとするものである。

〔考案の実施例〕

第 1 図は本考案の実施例の交流回転電機の固定子巻線を示すもので第 2 図と同一符号で示すものは同一部品である。固定子鉄心 1 に組み込まれた固定子巻線 2 の結線部 3 に接続片 5 が共線 21 にろう付けして固定され、この接続片 5 に口出線 4 の端部に取り付けた端子 41 がボルト 6 によって締め付けて接続されるようになっている。

このようにすれば口出線 4 を後工程後に取り付けることができるようになるので、口出線の保護に注意を払う必要もなく、太い口出線がコイルエンドに直接つかないので結線部寸法を小さくすることができ、また口出線の長さ合わせのための切断による無駄を省くことができるようになり、さらにコイルエンドの冷却性が向上する。

〔考案の効果〕

本考案によれば交流回転電機の巻線組み込み後の後工程の作業性が向上し、口出線が無駄なく容



易に取り付けられ、さらに巻線の冷却性がよくなるので価格低減と信頼性向上の効果がある。

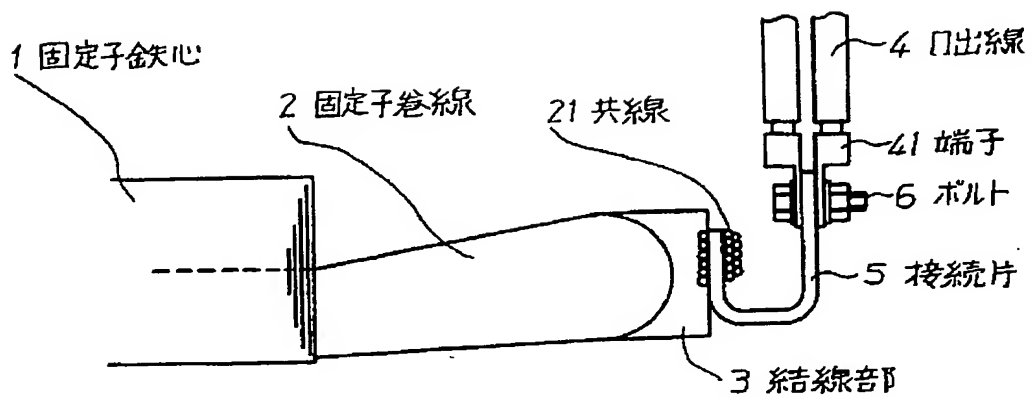
4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の実施例の交流回転電機の固定子巻線の部分正面図、第2図は従来の交流回転電機の固定子巻線の部分正面図である。

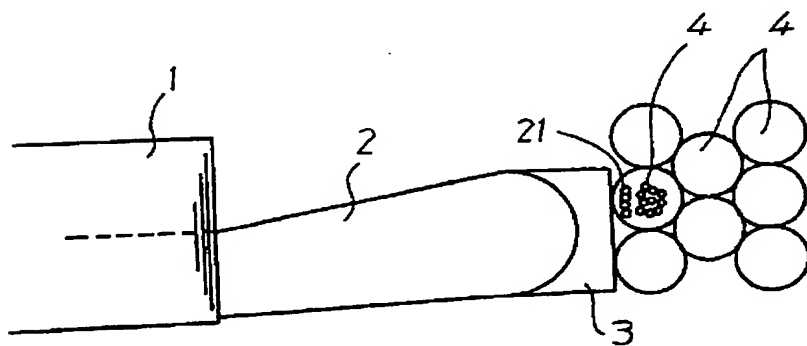
1 : 固定子鉄心、2 : 固定子巻線、3 : 結線部
4 : 口出線、5 : 接続片、6 : ボルト。

代理人弁護士 山口





第 1 図



第 2 図

489

実開62-18894θ

代理人井理上 山 口

